

中 学 校

平 成 17 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

特 別 活 動

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

目 次

主題 キャリア教育の視点に立った 自己を生かす能力を高める特別活動の在り方

I	主題設定の理由とキャリア教育について		
1	研究主題と分科会の主題設定の理由	-----	2
2	特別教育とキャリア教育	-----	3
3	キャリア教育について（本部会におけるとらえ）	-----	4
II	研究構想図	-----	5
III	キャリア教育の視点に立った特別活動の指導計画	-----	6
IV	実践研究		
1	実践事例1「自他の理解能力を深める学級活動の工夫」		
	（1）自己理解に関する生徒の実態調査	-----	8
	（2）指導の実際	-----	9
2	実践事例2「将来設計能力を高める学級活動の工夫」		
	（1）指導計画	-----	15
	（2）調査と検証	-----	17
	（3）働くことの目的や意義を考える指導の工夫	-----	19
V	研究のまとめと今後の課題	-----	24
1	研究のまとめ		
2	今後の課題		
	参考文献		

研究主題 キャリア教育の視点に立った

自己を生かす能力を高める特別活動の在り方

I 主題設定の理由とキャリア教育

1 研究主題と分科会の主題設定の理由

特別活動における学習活動が中学校3年間を見通した系統的な流れをもたず、学年独自の活動にとどまってしまう現状が少なからずある。3年間の系統的な特別活動を行うにはどうするか、さらに、生徒の発達段階に即した計画的な特別活動とはどのようなものか、について、明らかにすることを研究の大きな目標とし、これまで行ってきた特別活動の活動内容を見直すことにした。

一方で、キャリア教育は、望ましい勤労観や職業観を育てる教育であるが、その考え方は進路指導のみにとどまらず、意欲的に生活を送り、自己をより高めることを目標にしていると我々は考える。つまりキャリア教育は特別活動全体を系統的に網羅することのできる考え方である(P.3参照)ととらた。そこで、「キャリア教育」という視点に立って、中学校3年間を通して系統的な特別活動を考えることによって、生徒の発達段階に応じた活動計画を立てることができると考えた。その結果、自他の理解を深めたり、望ましい勤労観や職業観を育成したりすることで、自己を生かす能力を高めることができると考え、研究主題を設定した。

(1) 主題1「自他の理解を深めるための学級活動の工夫」

3年間を見通した系統的な学級活動を行うに当たって、まず自己理解・他者理解を深める活動を工夫することにした。これまでの中学校教育において、「自他の理解」を目的とした学級活動の実践は多く、その成果も上がっている。本分科会ではさらに、学校で学ぶ意義を考え、社会で必要な能力と学校生活との関連に気付かせ、意欲的に学校生活を送れるようになることを目指して、分科会の主題を設定した。

人の役に立ちたいとは思いますが、失敗を恐れているため挑戦できない。あるいは、やる前から自分には能力がないと思ってやらない。学級の中にはそのような生徒が少なからず存在する。そのような生徒達が、自分にはどのような力があるのか、また、その力を発揮する場面としてどのような場面が学校生活の中にあるのか理解する必要があると考えた。

さらに、不登校生徒は減少傾向にあるものの、平成16年度の不登校による中学校の長期欠席者はおよそ10万人(文部科学省 学校基本調査速報平成17年8月)、全生徒に占める割合は2.73%となっている。およそ37人に1人の割合で不登校生徒が存在する。また、ニートやフリーター、離職率等の課題もある。このような課題については、自分をより理解することで、学校生活や社会生活への意欲的につながり、少なからず解決できるのではないかと考える。そこで、自他の理解を深める学級活動を系統的に行うことで、自分をより理解することができ、学校生活に積極的に取り組むことのできるようになるのではないかと考えた。分科会1では、「キャリア教育」の「人間関係形成能力」に着目し、その中でも特に「自他の理解能力」を中心においた効果的な学級活動の工夫をねらいとした。

(2) 主題 2「将来設計能力を高めるための学級活動の工夫」

文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議(報告書)平成16年1月」の中で、キャリア教育を形成する4つの能力が示され、その一つに「将来設計能力」があげられている。日々の教育活動から、将来の夢や進学先がはっきり決まっている生徒ほど、学習面でも生活面でも意欲的で、毎日を大切にしている傾向があると感じている。このことから、「将来設計能力」を高めることによって、自分の将来をよりよく生きようとする態度を育て、意欲的に生活や学習に取り組むことができるのではないかと考えた。

これまで、中学校では生き方教育としての進路指導を行っており、特別活動や総合的な学習の時間において職場体験や職業調べなどに取り組んできている。しかし現状では、その活動のねらいを十分に明確にせずに取り組む場合も少なからずあり、働く意義や、その学習の意義を理解するといった事前・事後活動が十分に行われていない状況がある。また、東京都は5日間の職場体験学習の実施を方針としている中で、生徒がただ慣例的に職場を割り当てられて体験してくるのではなく、働く意義を理解し、自己の適性を知り、何を学んでくるのかという学習の意義を理解して体験活動をより有意義に行うことが大切であるとする。

そこで分科会2では、職場体験学習をより有効な活動とするために、自己の適性を知り、将来設計能力を高める学級活動の工夫を行うことにした。具体的な工夫として、職場体験学習の事前学習・事後学習の中で、「職業レディネス・テスト」を実施し、また「中学2年生の決意」という将来設計図を作成した。これらの取り組みが「将来設計能力」をどれだけ高めることができたのか、その効果を検証することにした。以上のように、分科会2では、「将来設計能力を高める」学級活動の工夫をねらいとして研究を行うことにした。

2 特別活動とキャリア教育

(1) キャリア教育を形成する4つの能力

文部科学省ではキャリア教育を形成する4つの能力として、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意思決定能力を挙げている。それらを以下にまとめた。

領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を發揮しながら、様々な人々とのコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認めあうことを大切にして行動していく能力 【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成果を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割およびその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業などに関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や行き方を考えていく能力 【職業理解能力】 様々な体験を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義およびその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力 【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意思と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力 【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

(2) 特別活動とキャリア教育を形成する4つの能力の関連

キャリア教育の視点に立った特別活動を進めるにあたって、中学校学習指導要領解説で示されている特別活動の内容を踏まえて、キャリア教育を形成する4つの能力との関連を下の表にまとめた。(中学校学習指導要領解説 ー特別活動編ーより)

後掲した表のように、特別活動によって育む力とキャリア教育を形成する4つの能力は、学級活動(3)「学業の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること」のみにとどまらず、実に多くの部分で関連している。よって、特別活動とキャリア教育との関係は、それぞれの学習を充実させることによって、互いの学習への関心や意欲の向上につながるという相互補完的な関係であるといえる。

特別活動の内容とキャリア教育を形成する4つの能力との関連

人間関係形成能力		情報活用能力	
【自他の理解能力】 学級内の組織作りや仕事の分担処理 学級活動(1)ー(イ) 自己および他者の個性の理解と尊重 学級活動(2)ーアー(イ) 進路適性の吟味と進路情報の活用 学級活動(3)ー(エ)	【コミュニケーション能力】 学級や学校における生活上の諸問題の解決 学級活動(1)ー(ア) 社会の一員としての自覚と責任 学級活動(2)ーアー(ウ) 望ましい人間関係の確立 学級活動(2)ーアー(オ)	【情報収集・探索能力】 選択教科等の適切な選択 学級活動(3)ー(ウ) 進路適性の吟味と進路情報の活用 学級活動(3)ー(エ)	【職業理解能力】 社会の一員としての自覚と責任 学級活動(2)ーアー(ウ) 学ぶことの意義の理解 学級活動(3)ー(ア) 望ましい職業観・勤労観の形成 学級活動(3)ー(オ)
将来設計能力		意思決定能力	
【役割把握・認識能力】 学級内の組織作りや仕事の分担処理 学級活動(1)ー(イ) 社会の一員としての自覚と責任 学級活動(2)ーアー(ウ) 学ぶことの意義の理解 学級活動(3)ー(ア) 望ましい職業観・勤労観の形成 学級活動(3)ー(オ)	【計画実行能力】 進路適性の吟味と進路情報の活用 学級活動(3)ー(エ) 主体的な進路の選択と将来設計 学級活動(3)ー(カ)	【選択能力】 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用 学級活動(3)ー(イ) 選択教科等の適切な判断 学級活動(3)ー(ウ) 主体的な進路の選択と将来設計 学級活動(3)ー(カ)	【課題解決能力】 青年期の不安や悩みとその解決 学級活動(2)ーアー(ア) 主体的な進路の選択と将来設計 学級活動(3)ー(カ)

3 キャリア教育について(本部会におけるとらえ)

キャリア教育とは、文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～』では、「キャリア」を、「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関連付けや価値付けの累積」と定義している。

そこで、本研究では、キャリア教育を「発達段階における立場・役割を理解する教育」ととらえて研究を進めてきた。キャリア教育とは、「一人一人が自分自身と、その行為である役割や職業とをいかに関係付けるかということについて、学びを促す教育」ということができる。そう考えると、単に学校現場だけでできるものではなく、地域・家庭・学校の三者の連携があってはじめて実施できるものである。そこで、本研究では、小学校における取り組みと連携させながら、中学1年生では、自分を見つめる「自己理解」を中心に職業と学校生活との関連させ、中学2年生では、働くことの目的や意義を考え、さらに自己の適性を把握した上で職場体験学習を中心に考察し、さらに中学3年生では、具体的に将来を考え、自己の進路について考える、という一連の流れを設定した。しかし、これらの流れは、特定の授業時間内で収めることができるものではなく、各教科や、さらには学級活動の中で実施される必要がある。それらを包括する概念がキャリア教育であるとした。

II 研究構想図

目指す生徒像・身に付けさせたい力

働くことに興味をもち、その意義を理解し自己の生き方を考えることができる生徒

生徒の実態

- ・自己の個性を理解せず、自己の生き方につなげることができない。
- ・社会の中の仕事や働くことについての興味が低く自己を生かそうとする態度につなげることができない。

指導の現状と課題

- ・職場体験は主に「総合的な学習の時間」での位置付けが多いが、本来特別活動で指導すべき内容との関連が明確になっていない。
- ・勤労観・職業観を育てる三年間の系統的な指導が行われていない。

社会的背景

- ・フリーター、ニートの増加など青少年の働くことへの意欲が低下している。
- ・学ぶ意欲の低下が課題とされており、将来に対する展望が描きにくくなっている。

研究主題

キャリア教育の視点に立った、自己を生かす能力を高める特別活動の在り方

- 分科会 1 自他の理解能力を深める学級活動の工夫
分科会 2 将来設計能力を高める学級活動の工夫

研究のねらい

望ましい勤労観・職業観を育成し、学校生活を意欲的に送ることを目指し、職場体験学習における事前・事後の学級活動の在り方や、職業的側面から自己理解を促す学級活動の工夫を提案することを本研究のねらいとする。

研究仮説

自他の個性を理解したり、働く意義を理解したりする学級活動の工夫を行えば、生徒が主体的に自分の生き方を考え、自己を生かす能力を高めることができるであろう。

研究の内容

分科会 1「自他の理解を深めるための学級活動の工夫」

- ・働くために必要な資質・能力を知り、自分自身の課題として考える活動。
- ・多面的に自分自身を見つめ、生徒が互いに見つめ合う活動。

↓
自分のよさに気づき、それを伸ばそうという意欲、態度を育てる。

分科会 2「将来設計能力を高めるための学級活動の工夫」

- ・職業レディネス・テストなどを活用し、個性を生かす職業について考える活動
- ・人はなぜ働くのか、なぜ学ぶのか、働く意義や学ぶ意義を考える活動。

↓
積極的に社会にかかわり、生き甲斐のある人生を築こうとする意欲・態度を育てる。

研究の方法

- ①基礎研究 文献研究 「中学校学習指導要領解説 - 特別活動編 -」 他
- ②調査研究 (1) 自己の適性など自分についての理解に関する実態調査 (対象：生徒)
(2) 職業レディネス・テスト (対象：生徒)
- ③実践研究 分科会 1： 「見つけよう！発見しよう！自分の力、仲間の力」
分科会 2： 「自己を生かす職場体験学習」

Ⅲ キャリア教育の視点に立った特別活動の指導計画

キャリア教育は、発達段階に応じて系統的に行うことが大切である。したがって、キャリア教育の視点に立った特別活動を進めていく上では、3年間を見通した年間指導計画を作成する必要がある。年間指導計画の作成にあたっては、これまでも行ってきた活動を、各学年での発達段階に応じて適時適切に構成し、3年間を見通した系統的な計画を立てることが大切である。

本研究を進めるにあたり、社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度を育て、全人的な成長、発達を促す活動を計画的に行い、生徒一人一人の勤労観、職業観を育てることを目的として、キャリア教育の視点に立って活動内容の系統性を見直した。

本研究では、特に、「自他の理解能力」と「将来設計能力」に視点を当て、それぞれの学年において、生徒の自主的、実践的な取り組みが行えるように計画した。

キャリア教育の視点に立った特別活動の指導計画

目 標	望ましい集団活動の育成の中で、社会的な資質や個性の伸長をはかり、自主的実践的な態度を育てていくこと		
ねらい	生徒一人一人の勤労観・職業観を育てること		
学年	特別活動の活動例	自他の理解を高める活動	将来設計能力を高める活動
1 学 年	ガイダンス 組織作りなど	<ul style="list-style-type: none"> 自己、他己紹介でお互いを理解する。 学級の目標や組織作りを通して自他の個性を尊重しながら協力することで、自己の役割に対する責任と喜びを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活上のガイダンスを通して自己の目標に見通しをもつ。
	校外学習	<ul style="list-style-type: none"> 自律心を養うとともに信頼関係を育む。 集団の規律や秩序を守る態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外の地域の仕事や人々の役割についての知識を広げる。
	職業調べ	<ul style="list-style-type: none"> 自己や他者の個性を理解した上で職業に必要な能力について知り、学校生活の中で生かす工夫をし、自己肯定感や自己有用感を養う。 <p>(実践事例1 掲載 P.8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事をする」ことの意味を考える。将来職業人、社会人として積極的に社会にかかわり、生きがいのある人生を築こうとする意欲・態度を育てる。
	職場訪問	<ul style="list-style-type: none"> 様々な職業及び職業生活について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事についての充実感・達成感を質問を通して理解を深める。
	職場訪問発表会	<ul style="list-style-type: none"> 友達の発表を温かい態度で聞き互いに認め合うことで自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な職業への知識を深める。
	私のライフプラン	<ul style="list-style-type: none"> 自己の能力や興味・関心を考えながら、進路についての夢や希望をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の学習成果をまとめ、将来についてお互いに深め合う。
	1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の活動を振り返って、自己の成長や課題を認識し、次年度への意欲へとつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の活動を振り返って、人の生き方、職業について知識を深めるとともに、自己の進路について考える。
2 学 年	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 自己、他己紹介によって相互理解を深める。 学級の目標や組織作りを通して自他の個性を尊重しながら協力することで、自己の 	<ul style="list-style-type: none"> 学級指導で学校生活上のガイダンスを通して自己の目標に見通しをもつ。

		役割に対する責任と喜びをもつ。	
	校外学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自律心を養うとともに信頼関係を育む。 ・集団の規律や秩序を守る態度を深める。 	・校外の地域で仕事についての知識を広げる。
	職業レデネステスト	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的に自分を知る。 ・個性を生かす職業について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の職業適性を考えるの参考にする。 <p>(実践事例2 掲載 P.17)</p>
	働くことの意義	・自己の適性や資質を理解した上で、生きがいのある人生を築こうとする意欲・態度をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の適性や資質を理解し、働くことの意味や意義を理解する。 <p>(実践事例2 掲載 P.19)</p>
	職場体験	<ul style="list-style-type: none"> ・自己表現とコミュニケーション能力を養う。 ・人を信頼する体験や人から信頼される体験により、自己有用感をもつ。 	・仕事とは何かを学ぶ機会とする。
	個別面談	・自己の個性や適性について考える。	・これまでの活動で学んだことを確認する。
	職場体験発表会	・勤労観・職業観を共有して、相互理解を深める。	・発表を通して様々な職業への知識を広げる。
	上級学校訪問	・自分の将来の生き方について考える。	・発表を聞き進路の参考にする。
	私のライフプラン	自己の能力や興味、関心を考えながら、進路計画を立てる。	・1年間の学習成果をお互いに話し深め合う。
3 学 年	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自己、他己紹介によって相互理解を深める。 ・学級の目標や組織作りを通して自他の個性を尊重しながら協力することで、自己の役割に対する責任と喜びを持たせる。 	・学級指導で学校生活上のガイダンスを通してこれからの進路に見通しを持つ。
	卒業生のお話を聞く	・他者の生き方について学び、共感する。	・ディスカッションを通して進路とは何かを考える。
	進路説明会	・進路計画を立て、進路の選択について考える。	・本年度の進路情報を踏まえて、進路について考える。
	上級学校訪問	・自分の将来の生き方について考え、具体的に選択していく。	・訪問した上級学校をもとに進路について考える。
	進路相談	・将来の目標を定める。自己の個性や興味・関心を理解する。	・自己の個性や興味・関心に基づいてよりよい選択を行い進路先を決定する。
	学級活動	・生徒相互に励まし合いながら、進路選択の問題を自ら解決できるように努力する。	・受験の準備、心構えとして受験についてのアドバイスを理解し自分の選択した進路に進めるように努力する。
	将来の自分を考える	・3年間を振り返り、自分の適性・能力を考慮しながら、自分がどう社会に貢献していくかを考えながら将来設計をまとめる。	・3年間を振り返り、自分の将来設計を具体的に考える。

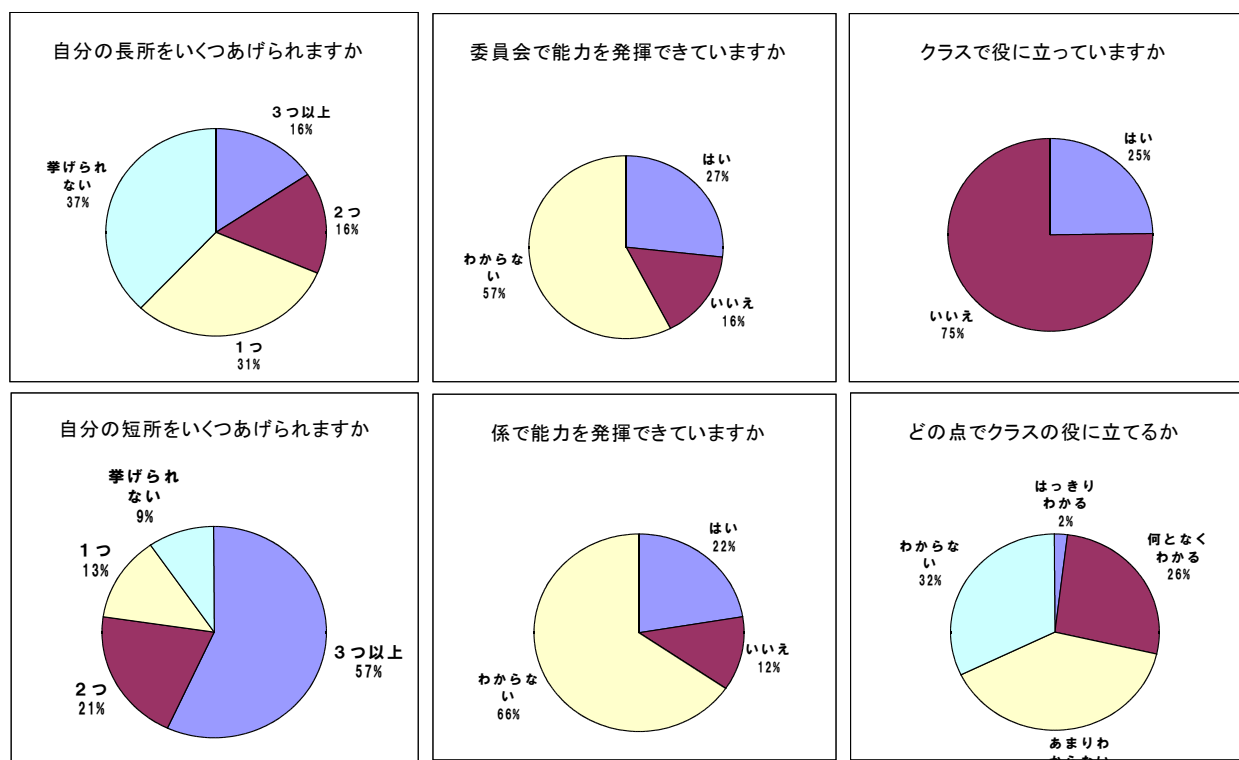
IV. 実践研究

1 実践事例 1 「自他の理解を深めるための学級活動の工夫」

(1) 自己理解に関する生徒の実態調査

分科会 1 においては、生徒が「自分の長所や短所についてどの程度理解しているか」「自分の能力をどの程度発揮していると感じているか」、また「自分の能力を発揮する場面を認識しているか」など、自己理解についての実態を把握するために、都内中学校 4 校の 1 年生 550 名を対象にアンケート調査を行った。

質問項目と集計結果は以下の通りである。



この調査から、自分の長所をあげられない、または1つだけならあげられると答えた生徒が68%を占めた。一方、自分の短所を2つまたは3つ以上あげられる生徒が78%を占め、自己を否定的にとらえている傾向があることが分かった。また、自分の能力を発揮できていると思う生徒の割合は22%、自分が役に立っていると感じている生徒は25%、どんな点で役に立てるかわかる生徒は26%であった。

これらの結果から、自分を否定的にとらえ、自己を生かすことや発揮できることを認識していない現状がうかがえる。また、どこで自分のもっている能力を発揮して良いのか分からないと感じている生徒が多い現状も明らかになった。このことから、今後の取り組みとして、自分を肯定的にとらえることや、自分が役に立っているという認識を高めるために、自己を理解し、それを学校生活の中で生かせる場や機会を知ることができる活動を、意図的に設定することが必要であると考えた。

(2) 指導の実際

①題材名 「見つけよう！発見しよう！自分の力、仲間の力」

②対 象 中学校第1学年

③題材設定の理由

新年度を迎えて、学級活動において自己紹介をするなど自己を振り返り自己理解を深める活動は、3年間を通して何度も行われている。また、様々な学習活動のまとめの際に振り返りを行って、生徒が自らの行動を考え自己理解を深める活動も多くの学校で行われている。しかし、そのような自己理解や振り返りの学習が、将来の自分にどのように生きてくるのか十分理解されていない場合が多い。

そこで、将来の社会生活を送る上でどのような能力が必要であるかを知り、その力が果たして自分に身に付いているのかを考える機会として本題材を設定した。そして、学校生活のどの場面でそのような能力が身に付くのかを考えることで、学校生活における様々な活動の意義を理解し、学校生活への意欲が高まると考えた。このように、社会生活の側面から自己理解を促すことで、望ましい勤労観・職業観を育てることにつながると考えた。

④題材のねらい

- ・社会の中で働くためにどんな能力が必要かを知る。
- ・自己の個性や能力への理解を深め、学校生活に生かそうとする態度を育てる。

⑤評価について


I 人間関係形成能力

他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・協働してものごとに取り組む。

「自他の理解能力」→ 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力。

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(平成16年1月)より


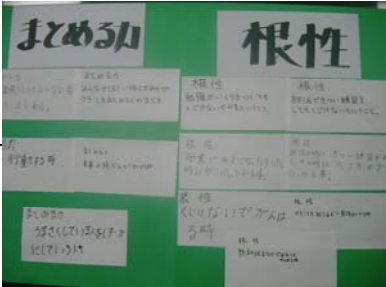
今回の研究はキャリア教育の視点に立っているため、評価もキャリア教育で示されている力について評価されるべきと考える。したがって以下のような観点と評価規準を設けた。なお本題材が I 人間関係形成能力の中の「自他の理解能力」に着目していることからこの能力についての評価規準を以下のように設定した。

評価の観点		評価規準
I 人間関係形成能力	自他の理解能力  コミュニケーション能力	・自分の良さや個性を理解する。 ・他者の良さや個性を理解し、尊重する。 ・自己の活かし方を学校生活と結びつけて考えることができる。
II 情報活用能力	情報収集・探索能力 職業理解能力	
III 将来設計能力	役割把握・認識能力 計画実行能力	
IV 意志決定能力	選択能力 課題解決能力	

⑥ 活動の流れとねらい及び評価方法

		ねらい・学習活動・事前準備	評価方法
事前指導		興味のある職業について職業調べやアンケートを行う	
1 時 間 目	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 働くためにはどのような能力が必要であるか知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 班の話し合いの様子 ワークシートへの記入内容
	指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 学級成員の興味の高い職業を提示する。(アンケート結果) 班単位でそれぞれの職業に必要な能力について話し合い模造紙にまとめる。 (班に職業を割り振る 例 1班;獣医師 2班;先生 など) 班毎に発表。(模造紙を黒板に貼り班長が発表) 各班の共通項を探り、働くために必要な能力とは何か考える。(いくつか共通項を出し次の時間以降に利用) 振り返りシート(P.12表1)で振り返る。 	
準備		<ul style="list-style-type: none"> 模造紙(班の数)、マジック 振り返りシート(人数分) 	
2 時 間 目	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価、他者評価を通じ、自分や学級成員の今まで気付かなかった面を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 班での活動の様子 ワークシートへの記入内容 ワークシートへの記入内容
	指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りと働くために必要な能力の再確認。 社会が生徒に望むこと(右表)を紹介し、自分達が考えた能力との違いや共通点を考える。 働くために必要な能力について自己評価、他者評価シートを記入する。(P.12表2参照) 班員でシートをの交換し、自分にどんな力があると他者が感じているかを知る。 自己分析シートにまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>事業所が生徒に望むこと</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 責任感 ② コミュニケーション能力 ③ 言葉遣い ④ 時間に対する意識 ⑤ 協調性 ⑥ 積極性 ⑦ 基礎学力 ⑧ 個性 <p>(H16年特別活動教育研究所報告書 昨年の事業所アンケートの結果より)</p> </div>	
準備		<ul style="list-style-type: none"> 自己評価、相互評価シートと自己分析シートの準備(人数分) 生徒は、はさみを用意 	
3 時 間 目 (本 時)	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活のどの場面で、どんな力が育つのかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 班での活動の様子 アンケートへの記入内容
	指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 働くために必要とされる能力は学校生活のどのような場面で生かせるか考え、その場面を小さいカードに書き出す。(例;「まとめる力」は、「学級活動で司会をするとき」) 各自小さいカードにどんどん書く。 カードに書かれたことを発表し合う。 同じ意見のカードはまとめて、模造紙に貼る。 班長中心に意見をまとめ、模造紙にマジックで書く。 班毎に発表する。教員がまとめる。 3時間を通し各班の良かった所を指摘する。 振り返りシートで振り返る。 	
準備		<ul style="list-style-type: none"> 働くために必要とされる能力をカードに記入する マジック・小さいカード(多めに) 模造紙(班の数) 振り返り用シート(P.13表4参照)の用意(人数分) 	

⑦本時の展開(全3時間の3時間目)

時間	活動の内容	指導上の留意点・●評価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返り 「働くために必要な能力」が書かれたカードや前時に行った自己分析シートを見て、前時までを振り返る。 本時のねらいを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> カードを用意し、一つ一つの能力について振り返らせる。 前時に行った自己評価シートを用意する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>「働くために必要な能力」が学校生活のどのような場面で必要とされるかについて考える。</p> </div>		
展 開	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の説明を聞く。 班ごとに一つの能力を課題として示し、その能力が必要とされる場面を考えてメモに記入する。  <ul style="list-style-type: none"> 班長が課題となる能力を選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の反応から、理解が不十分と判断した場合、いくつか例を挙げて説明する。 具体例 責任感が必要な場面は…… 学級委員としてみんなをまとめる時 教科係として持ち物を聞きに行く時など カードを使ってまとめる際の注意点について説明する。(意見を絶対否定しない) 各班の班長を集め、その班が考える能力を決定させる。 班長が選択した能力のカードと、模造紙、小さいカード、サインペンを班に持ち帰る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>カードを活用して、働くために必要な能力が学校のどの場面で生かせるか、班でまとめよう。</p> </div>		
<ul style="list-style-type: none"> 働くために必要とされている能力が、学校のどの場面で生かせるか考え、小さいカードに書いていく。 同じ意見をまとめながら、のりで小さいカードを模造紙に貼っていく。 班長を中心に小さいカードをまとめる。 		
<ul style="list-style-type: none"> 各班毎に発表する。 班長が代表して各班で、まとめた意見を発表する。 		
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> 本時の振り返り アンケートを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を確認する。 本時の活動を振り返らせる。 ●振り返りシートに記入しているか。 学校生活に意欲的な姿勢が感じられる回答か。 

⑧活動の実際

以下に実際の活動に使用したワークシート、また授業内で出た意見やシートに書かれた感想を示す。

1時間目

職業に必要な能力として各班からあがった能力

- ・ 協調性
 - ・ やさしい
 - ・ まとめる
 - ・ 笑顔がある
 - ・ 責任感
 - ・ 積極性
 - ・ 根性
 - ・ 手先が器用
- など

右の表1は振り返り用シート。

振り返り用シート

1・今回でた能力にはどんなものがあったか書いてみよう。

2・あなたは自分に1で書いた能力がどの程度あると思いますか。

3・最後に、今回のような授業についての感想を書いて下さい。

表 1

2時間目

下の表2は自己評価、他者評価シート。表横の自分以外の欄は班員の名前を入れる。マス目には該当するところにマルを書き入れる。(マルの数は一人に対し3つは必ずつける)

自己評価・他者評価

自分の生活を振り返り、項目に当てはまると思うものに○をつけてみよう。(最低3つはつけてみよう)

項目	自分													
1 責任感がつよい														
2 協調性がある														
3 積極的である														
4 まじめである														
5 まとめる力がある														
6 社交的である														
7 決まりを守る														
8 根性がある														
9 笑顔がある														
10 器用である														
11 やさしい														

表 2

縦の2重線部分は切り取って、それぞれの班員に渡す。

1～11の項目の内容は、1時間目にクラスで出された内容に合わせて作成する。

下の表3は自己分析シート。自分で評価した力と、班員が自分を評価してくれた力を集計して自己分析シートに記入する。自己評価や他者評価から感じたことを右の欄に書き込む。

※評価の少ない項目よりも、多い項目を肯定的にとらえるよう指導する。

自己分析シート

1 自己評価・相互評価シートをまとめる
自分のところは○、他者の評価は○の数で書こう

項目	自分	他者
1 責任感がつよい		8
2 協調性がある		2
3 積極的である		1
4 まじめである	0	8
5 まとめる力がある		3
6 社会的である		3
7 決まりを守る		4
8 根性がある		0
9 笑顔がある	0	5
10 手先が器用である		1
11 やさしい	0	6

1年D組 番
氏名

2 他人と自分の評価に違いはあったらどうか、どのような点が違っていて、どのような点があつていただろう。
他人と違う評価にしたのが「責任感がつよい」ところだ。そして、自分の評価とあっていたのが「まじめ」ところだ。他人からはどう思うだろうと思っていた。

3 自分良いところ、直した方が良いところを今回の項目から考えてみよう。
他の人の評価で「責任感がつよい」ところがなかった。でも、自分ではそう思いません。自分では責任感が全くないと思います。

4 自分が今後伸ばしていかなければいけないと思う力は何だろうか？
今後一番伸ばしていかなければならないと思うところは「積極的」ではないところだと思う。

5 自己評価・他者評価を行った感想を書いてみよう
他の人の評価で自分では全くないと思っていたのに他人から見た評価は「まじめ」が多かった。他人から見ると自分の中身と自分が見た自分自身の中身はちがうんだなと感心。

表 3

この生徒は班員からの評価を基に、「積極性」を伸ばそうと考えていることが分かる。

3時間目

学校生活のどの場面でこの力が必要か(生徒の意見から)

能力 生徒の意見

- | | | |
|-------------|----------------------|---------------------|
| まとめる | ・ 学級委員としてクラスをまとめる時 | ・ 部活動のキャプテンとして活動する時 |
| 協調性 | ・ 人が困っている時、悩みを抱えている時 | |
| 責任感 | ・ 代表してみんなのために行動する時 | |
| | ・ 頼まれたことを責任をもってやる時 | |
| 根性 | ・ 勉強がきつてもくじけずやる時 | |
| | ・ 部活で大きい声を出す時 | |
| 積極性 | ・ 手を挙げて発表する時 | |

振り返り用シート(表4)に記入された感想

- ・ 知らない自分を見つけられたと思います。(女子)
- ・ 自分の欠点がわかり、そこを直そうと思えるようになった。(男子)
- ・ 自分では分からなかったり、分かっていたけど違っていたりなど、自分のことが分かって良かった。(男子)
- ・ 決まりを守るという票が少なかったなので、そういうところを意識していこうと思いました。(女子)

振り返り用シート

1 「身近な人の職業調べ」からはじまったこの授業で、自分について分かったことは何ですか？

2 学校生活に対する気持ちの中で、変化した部分はどこですか？

3 あなたは、これから学校生活のどのような場面で頑張っていこうと考えますか？(具体的に答えよう!!)

4 最後に、今回のような授業についての感想を書いて下さい。

表 4

⑨授業分析

本指導事例の2時間目には、1時間目に生徒が考えた「働く時に必要な能力」についての自己評価・他者評価をグループワークによって行い、3時間の授業の中でもっとも生徒の反響が大きかった。3時間目の振り返りシートの感想(右表)からわかるように、他人からどのように見られているか、他人はどのような人なんだろうという興味・関心を引き出し、自己理解・他者理解を深めることができた。

また、「自己理解について」のアンケート調査で、生徒は自分にはどんな力があるのかを知りたいと思っているという結果が出たことから、中学1年生の活動として効果的である。なお、他者評価シートの実施に当たっては、小学校時代からの人間関係が大きく変化する夏休み以降が望ましい。また、他者評価シート記入の際には、他者を非難したり、いい加減な評価をしたりせず、友達のよいところを見つけ、多面的に見ることが出来るよう、十分に人権に配慮するような指導が必要である。そしてさらに自己分析シートについては、集計結果の評価の少ない項目よりも、多い項目に着目して肯定的にとらえるように指導することが大切である。

振り返りシートの感想

- ・他の人が自分をどのように見ているかがわかってよかった。
- ・他の人を評価してみたことがなかったが、これからは注意してみようと思った。
- ・自分の考えている自分と、他人の考えている自分とが違うことがわかってびっくりした。

他者について力があると感じる項目を最低3つ以上にマルをつけるという活動を進めたが、十分に考えずにすべての項目にマルをつけた生徒に対して、評価された生徒が「真剣にマルをつけてほしい」という感想を述べていた。生徒たちは「認められることが嬉しい」「いい加減に評価されたくない」と思っていることを感じさせる言動だった。

⑩考察と今後の課題

今回の3時間の授業実践において、自己理解を深めつつ今後の学校生活との関連付けを考えた。アンケートからは、「自分自身のことを改めて理解できた」「自分には何が足りないのか分かった」と自己理解が深まったと考察できる。特に2時間目に行った、他者からの評価では、今まで気付かなかった自分に気付き、学校生活との関連についても「これから授業で積極的に手を挙げたい」「委員会で自分の力を発揮した。」など、生徒が自分なりにこれからの学校生活に目標をもつことができた。このことから、今回のねらいの一つである「自己の個性や能力への理解を深め、学校生活に生かそうとする態度を育てる」は達成できたと考える。そして、生徒の「自己を生かす能力を高める」ために有効であったと考察する。

もう一つのねらいである「社会の中で働くためにはどんな能力が必要かを知る。」については、班で必要な能力を考える取り組みの後、「職業についてこれからもっと考えてみたいと思った」というような意見が見られ、将来について考えるきっかけとなった。

今回の授業の課題としては、班活動の時間が予想よりもかかったということがあげられる。特に1、3時間目のように模造紙にまとめる場合、生徒の実態に応じて時間配分を考える必要がある。また、前述の通り、自己分析シートでマルが少ない生徒が欠点としてとらえてしまわないように、マルの数の多少に差が出ないような配慮も必要であると感じた。

また、学級活動の工夫として実践してきたが、「班員と仲良くなれた」「周囲の人が自分のことを見ていることがわかった」との感想から、班活動としても充実していたと考察する。

2. 実践事例2「将来設計能力を高める学級活動の工夫」

(1) 指導計画

① 題材名 「自己を生かす職場体験学習」

② 対象 中学校第2学年

③ 題材設定の理由

第1学年では「職業調べ」「職場訪問」を通して、身近な職業について知ることに重点を置いた。第2学年では、第1学年での活動を発展させ、「職場体験学習」を通して、自らの生き方（将来）を考える。すなわち「将来設計能力」の育成に重点を置くことになる。

小学校では、「夢や希望をもつこと」に重点が置かれている傾向がある。そのことを踏まえ中学校段階では、「自己の適性」「働く意義」を学習することにより、勤労観・職業観をより深く育成しようと考えた。さらに、職場体験学習を通して、社会人としての生き方や職業生活にふれることにより、より具体的に自らの生き方考えることを目標とした。

④ 題材のねらい

- ・ 自己の適性に目を向け、それを生かすためのプロセスをより具体的に考える力を育てる。
- ・ 職場体験学習を通して働くことの意義や社会的役割を理解し、自己の将来について考える力を育てる。

⑤ 評価について

今回の研究主題である、「キャリア教育の視点に立った、自己を生かす能力を高める特別活動の在り方」を追求するために、キャリア教育の4つの能力を評価項目とし、以下のような評価規準を設定した。

キャリア教育の視点に立った特別活動における評価規準

	ア 人間関係形成能力	イ 情報活用能力	ウ 将来設計能力	エ 意思決定能力
評 価 規 準	相手の思いや気持ちに、自分の意志を表現し、他者に伝えることができる。 地域の人との関わりを通して、社会的なマナー（協力・責任感）を身に付けることができる。 協力を通して、わかったことを相手にわかりやすく伝えることができる。	多種多様な職業があることを知り、働く人の気持ちを理解することができる。 他者の生き方を通して、自らの生き方を深く考えることができる。	自己実現をするためのプロセスを理解し、より具体的に実現のための努力をすることができる。 自己の将来を具体的に考え、よりよい生き方考えることができる。	課題を把握し、どう解決をしていくか、その手だてを考え、実行することができる。 夢を実現するために、自分が何をするか、どんな力を身に付けるかを考えることができる。

⑥活動の流れとねらい及び評価方法

	内 容	学 習 方 法	ねらい(評価規準との関連)	評 価 方 法
1	概要説明 中2・〇月の決意	・これからの流れについての説明。 ・ワークシートを用いて、将来についての決意を記入。	・自己の特性を踏まえ、将来について具体的に考えることができる。 ・夢や希望を実現する上で必要なことは何かを考えることができる。 (ウ・エ)	・活動の観察 ・ワークシートの記録
2	職業レディネステスト(1回目)	・職業レディネステストを通して、自分の役割(職業)への興味・関心や指向性を確認する。	・プロフィールを作成することにより自己の特性について理解をすることができる。 (エ)	・活動の観察
3	職業のもつ意義を考える 「働くことの目的や意義を考える指導の工夫」 (掲載 P.19)	・今描いている夢や希望についてワークシートに記入。	・職業には単に夢だけではなく、社会的側面もあることを理解することができる。 ・職業についての社会的な意義を理解することができる。 (ウ・エ)	・活動の観察 ・ワークシートの記録
4	適正や資質を考える	・ワークシートを用いて、職種によって求められる適正や資質について考える。	・活動によって、職業の社会的な役割や社会人の具体的な姿を描けることができる。 (ウ・エ)	・活動の観察 ・ワークシートの記録
5	マナー講習・自己PR	・ワークシートを用いて、職業についての社会的意義、マナーについて学習をする。 ・自己PRカードの記入。	・社会人としての基本的なマナーについて理解することができる ・自己PRカードの記入により自己の特性を把握することができる。 (ア・イ)	・活動の観察 ・ワークシートの記録
6	事前訪問	・各職場へのあいさつを自己PRカードをもとに行う。 ・体験する職場の仕事内容の確認を行う。	・事前学習で学んだマナーについて実践することができる ・自分自身のことを。相手に伝えることができる。 (ア・エ)	・活動の観察 ・ワークシートの記録
7	職場体験学習	・職場体験を行う。	・体験活動を通して、職業人としての生き方、働くことの意義を理解し、自分自身の生き方を考える力を高めることができる。 (ウ・エ)	・活動の観察 ・事業所からの報告 ・日誌の記録
8	職業レディネステスト(2回目)	・職業レディネステストを通して、自分の役割(職業)への興味・関心や指向性を確認する。	・プロフィールを作成することにより自己の特性について理解をすることができる。 ・1回目との比較により、自己の内面的な成長を確認することができる。 (エ)	・活動の観察
9	職場体験学習まとめ	・職場体験学習ノートをまとめる	・体験活動を振り返ることにより、将来についてより深く考えることができる。 (イ・ウ)	・活動の観察 ・日誌の記録
10	中2・〇月の決意	・ワークシートを用いて、将来についての決意を記入。	・自己の特性をふまえ、将来について具体的に考えることができる。 ・1回目との比較により、自己の内面的な成長を確認することができる。 (ウ・エ)	・活動の観察 ・ワークシートの記録
11	礼状の作成 ポスターの作成	・各職場へ、感想・お礼状を作成する。 ・体験学習で学んだことをポスターにまとめ、発表会の準備をする。	・学んだこと、感じたことをより分かりやすく相手に伝える工夫をすることができる。 (ア・イ)	・活動の観察 ・ポスターの記録
12	発表会 (ポスターセッション)	・作成したポスターをもとにポスターセッションを行う。	・学んだこと、感じたことを分かりやすく相手に伝えることができる。 ・他者のポスターセッションを聞いて、自分自身の体験と比較することができる。 (ア・イ)	・活動の観察 ・ワークシートの記録

*ねらい(評価規準との関連)のカタカナは、前頁のキャリア教育の4つの能力を表す。

(2) 調査と検証

①職業レディネス・テスト（VOCATIONAL READINESS TEST 以下VRTと記述）について

今回の研究では、職場体験学習を中心とする事前・事後学習を通して、自己の内面的な変容を知る一つの方法として職業レディネス・テストを事前・事後の2回実施をした。

本分科会の主題である「将来設計能力」を高めるためには、職業レディネスの発達は欠かすことのできない能力の一つであり、今回の実践によって高めることができるのではないかと考えた。

職業レディネス・テストは、ホランド理論に基づく6つの興味領域（現実的、研究的、慣習的、社会的、企業的、芸術的）に対する興味の程度と自信度がプロフィールで表示される。本研究において、職業興味を測定するA検査と、職務遂行の自信度を測定するC検査を実施した。

本研究で実施した検査の測定内容

興味および自信度をとらえる枠組みとしての6つの職業領域

- (1) 現実的職業領域（R領域）
機械や物体を対象とする具体的で実際的な仕事や活動の領域
- (2) 研究的職業領域（I領域）
研究や調査のような研究的、探索的な仕事や活動の領域
- (3) 社会的職業領域（S領域）
人と接したり、人に奉仕したりする仕事や活動の領域
- (4) 慣習的職業領域（C領域）
定まった方式や規則、習慣を重視したり、それに従って行うような仕事や活動の領域
- (5) 企業的職業領域（E領域）
企画・立案したり、組織の運営や経営等の仕事や活動の領域
- (6) 芸術的職業領域（A領域）
音楽、美術、文学等を対象とするような仕事や活動の領域

評価の方法としては、A検査・C検査によって表示された各個人のプロフィールを用いた（右グラフ参照）。実線のグラフのように山と谷がはっきりしている形状の場合、「興味や志向性が分化されている」といい、それだけ職業への準備性ができていると解釈される。

このテストで注意すべき点は、結果から直ちに適職判定をすることはできないことである。

あくまでも結果の解釈を通して、職業情報の探索や進路選択への関心を高めるように支援することが不可欠であり、個々の生徒が自分なりに結果について考え、選択の可能性を広げるようにすることが必要である。

<職業レディネス・テストとは>

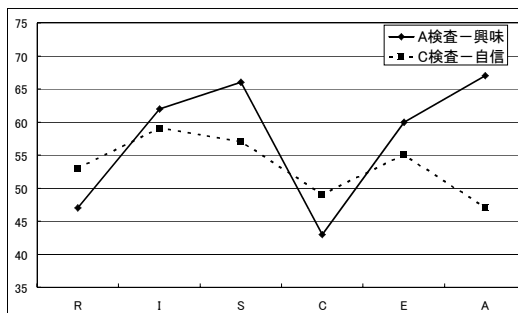
中学校・高等学校などの進路（職業）指導において、生徒の職業レディネスを把握することを目的として作成された心理学的テスト。

<職業レディネスとは>

個人の根底にあつて、（将来の）職業選択に影響を与える心理的な構え。

（参考）「職業レディネス・テスト手引き」日本労働研究機構・社団法人雇用問題研究会

<参考>



②職業レディネス・テスト（VRT）による自己の適性の分析

今回の研究では、中学2年生99名を対象とし、職場体験学習の実施前後の2回、職業レディネス・テストを行った。分析の方法として、各個人のA検査（職業興味）・C検査（職務遂行の自信度）のプロフィールに注目した。6つの検査項目(P.17 参照)のグラフ全体の形状に山と谷がはっきりとしている（分化している）人数について第1回目・第2回目とを比較した。

第1回				第2回					
VRT実施人数	99名			VRT実施人数	99名				
AC検査状況	分化	75	未分化	24	AC検査状況	分化	80	未分化	19
全体に対する割合	分化	75%	未分化	25%	全体に対する割合	分化	81%	未分化	19%

＜考察＞第1回目の調査では、第1学年で「職業調べ」を実施しており、全体的には75%の生徒が分化傾向にあるという状況であった。しかし、個別のプロフィールを分析をすると、第1回目では未分化であった生徒が分化傾向へと変化し、事前指導・職場体験学習・事後指導の実施後となる第2回目の検査では、分化している生徒が増加している。

この2回の調査により、一連の学習が生徒の職業レディネスを向上させるために有効であったと考察できる。また、生徒が自分自身の職業レディネスの変化・変容を客観的に把握することができ、VRTの実施は、「将来設計能力」を高める上で効果的であった。

③将来の夢や生き方に関する意識調査

さらに、職場体験学習が「将来設計能力」を高める上でどのくらい有効であるかを把握するために、中学校第2学年の生徒62名を対象に、職場体験学習実施の前後で、将来の夢や生き方に関する意識調査を行った。調査用紙は、東京都教育委員会作成リーフレット「望ましい勤労観・職業観の育成Ⅱ」（平成17年3月）から、「15歳の決意（わたしのライフプラン）」ワークシートを参考に作成した。

	内訳（人数に変化のある項目は、左が体験学習前、右が後）		職場体験学習→		前	後	
	具体的な将来の夢	あ	料理人（2人→3人）・和菓子職人・スポーツ関係（2人）・空手の選手 バスケットボールの選手・社会の教師・ペンション経営・飼育員 国際関係の仕事・IT企業経営（0人→1人）・自衛官（1人→0人） 動物関係の仕事・音楽関係の仕事・薬剤師・獣医・学芸員・デザイン関係の仕事 パティシエ（1人→0人）・美容関係（2人→0人）・保育士（1人→2人）	職場体験学習→		11 (上段男子)	13 (下段女子) 9
	な	楽しく生きる（3人）・年収3億円稼ぐ・年収2千万稼ぐ・自由に生きる・良い人生をおくる・社長になる（2人→1人）・やりがいのある仕事に就く 好きな仕事に就く・いい仕事に就く 人の役に立つ（3人）・楽しく生きる（3人）・やりたいことをする・幸せに生きる のびのび生きる・自分にあった仕事に就く	職場体験学習→		25	23	
どんな生き方をしているか	20歳	大学生	職場体験学習→		31 15	31 17	
		専門学校生	職場体験学習→		1 4	0 4	
		社会人	職場体験学習→		4 4	5 2	
	35歳	仕事をしている	一生懸命に（20人）・自分のやりたい（7人）・安定して（2人） 自分のやりたい（7人）・一生懸命に（5人）・無理せず（4人）	職場体験学習→		36 17	36 19
		仕事をしていない	専業主婦で（3人）	職場体験学習→		0 6	0 4
	55歳	仕事をしている	一生懸命に（4人）・自分のやりたい（4人）・退職後を考えて（4人） 内職などの（3人）・無理せずに（3人）・自分のやりたい（2人）	職場体験学習→		33 12	33 11
		仕事をしていない	専業主婦で（6人）	職場体験学習→		3 11	3 13

3日間の職場体験学習の実施前後に行ったところ、変容が見られた生徒は少なかった。このことから、「将来設計能力」を高めるためには、職場体験学習だけでなく、事前学習と事後学習において将来の生き方を考える指導を行う必要ではないかと考察し、「将来設計能力」を高める学級活動の指導案を作成し、検証授業を行うこととした。

(2) 働くことの目的や意義を考える指導の工夫

(学級活動(3)-(4)望ましい職業観・勤労観の形成)

①本時のねらい

- 個々の生徒がもつ将来の夢は、その生徒の勤労観・職業観に基づいて描かれる。授業では、働くことの目的や意義について、学級の生徒の様々な価値観にふれ、共有することを通して、個々の生徒の勤労観・職業観を深め、将来を展望する能力を高めることをねらいとする。
- 「自己を生かす」勤労観・職業観について、自己の興味・関心や性格、適性などの個性を職種に生かすという側面と、勤労・職業を通じて社会の一員としての役割を果たし、自己を社会に役立てるという自己実現的な側面とを整理して、理解を支援する。
- 収入を得て生計を維持するという経済的な側面や、様々な職業がすべて社会的に意味をもち、社会を支えていることを理解できるよう支援し、勤労観・職業観として高めることをねらう。

②本時の展開

(キャリア教育の視点はp.16(1)⑤より)

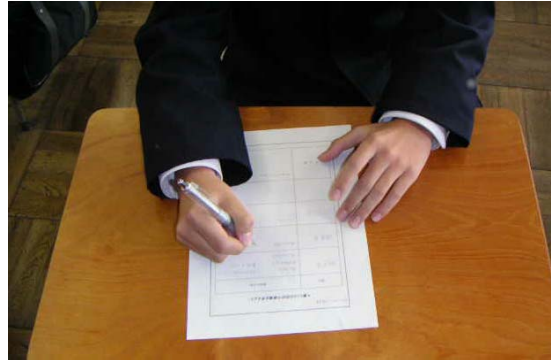
	活動の内容	指導上の留意点・●評価(キャリア教育の視点)
導入	○本時の目標を知る。	・働くことの目的や意義について考えることを伝える。
展開	①ワークシートNo.1を使って、将来の夢や希望、その「理由」を挙げる。 <ul style="list-style-type: none"> ・A欄に希望する職種を記入する。 ・A欄の職種について、なぜその職業を希望したのか、その「理由」をB欄に記入する。(P.20 ワークシートNO.1) ・B欄に書いた「理由」を1つずつカードに記入する。 	●評価…将来の職業について、具体的にイメージすることができたか。また、その「理由」を考えることができたか。(ウ・エ) <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん挙げるように指導する。 ・職種が挙げられない場合は、働く目的のみ考えさせてもよい。 ・どんな「理由」でもよい。ひとつの職業に、いくつかの「理由」があってもよい。 ・具体的な職業が挙げられない場合も、職業の目的や意義をイメージし、「理由」を考えさせる。 ・「理由」はなるべく短い言葉で記入させる。 ・同じ「理由」は1枚のカードでよい。
	②カードに書かれた「理由」を発表しあい、「理由」の分類を試みさせる。(班活動) <ul style="list-style-type: none"> ・「理由」が記入されたカードを班のテーブルに出して分類を試みる。 ・班で3～5つくらいに「理由」进行分类する。 ・ワークシートNo.2にまとめた「理由」を記入しながら、その「理由」の分類にふさわしい「項目」を考る。 ・班の代表者が「理由」の項目を学級で発表する。 	●評価…目的を踏まえ、自らの考えを伝え、表現することができたか。「理由」の分類を行いながら、働くことの目的や意義を考えることができたか。(ア・イ・ウ) <ul style="list-style-type: none"> ・机を班でまとめる。 ・項目として「その他」を認める。「その他」については具体的な内容を発表させる。
	③班の発表を受け、働くことの目的や意義について教師とやり取りをしながら理解を深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><引き出したい3つの側面・説話例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入を得て生活するという側面。 ・趣味・特技の延長と人の役に立つ喜び。自己実現について。 ・様々な職業が社会を支えているという側面。 <p>※生徒が挙げた様々な「理由」についても、教師が学級全体とやり取りしながら、再度分類を試みたり、その意図を共有する説明を加える。(無理にまとめない)。</p> </div>	●評価…班の発表を受け、働くことの目的や意義について、様々な側面があることを理解できたか。(イ・ウ)
まとめ	○ワークシートNo.3を使って、働くことの目的や意義について理解が深まったこと、授業の感想を書く。	●評価…働くことの目的や意義を踏まえた職業観・勤労観を深めることができたか。(ア・ウ・エ) <ul style="list-style-type: none"> ・今回の授業を受けての気持ちの変化を、感想に書かせる。 ●評価…展開①の希望と変化が現れたか。(イ・ウ)

【ワークシートNo.1】
*働くことの目的や意義を考えよう！

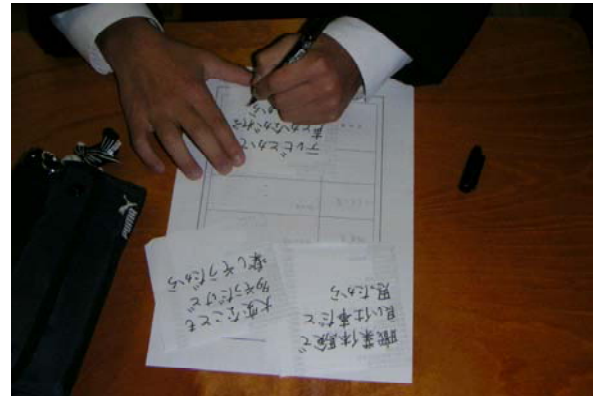
A (希望の職種)	B (理由)
	・ ・ ・
	・ ・ ・
	・ ・ ・
	・ ・ ・

年 組氏名 _____

※希望の職種、その「理由」をワークシートに記入する。



※「理由」をカードに記入する。



※班でカードの理由を発表しあう。



※班で討議しながら「理由」を分類する



【ワークシートNo.2】
*働くことの目的や意義を考えよう！

項目	分類された理由
	・ ・ ・ ・
	・ ・ ・ ・
	・ ・ ・ ・
	・ ・ ・ ・
その他	・ ・ ・ ・

組 班 _____

③授業分析

【ワークシートNo.2のまとめ】

※表中の【 】は生徒の班による分類の項目

A 班	B 班	C 班	D 班	E 班	F 班
【興味】 ・子どもにいろいろ教えられる ・発明するのが楽しそう ・部活の顧問をやってみたい ・生徒にものごを教えてみたい ・子供と一緒にいることができるから	【役に立つ】 ・世間の役に立ちたい	【気持ち】 ・自分の努力がそのまま結果につながる ・小さい子が好き ・テレビとかで声とか流れるとすごい ・普通っぽいから好き ・職業体験でよい仕事だと思った ・やりがいがありそうだから ・大変そうだけど楽しそうだから	【～しそう】 ・楽しそう	【～したい】 ・動物のことを調べたい ・食品を扱うのが楽しそう ・扱いたい ・食べたい ・部活の監督をしたい ・あこがれていた	【助ける】 ・人の役に立ちたい ・楽器が直せるようになりたい ・障害のある人に色々な手助けがしたい。 ・自分の作った物の感想を聞きたいから
【人のため】 ・大人になっていい仕事をしたい ・世間のために働きたい ・人の役に立ちたい	【好きだから】 ・サッカーの監督が好き	【～したい】 ・色々な国々の人と交流したい ・外国の有名人としゃべれる ・世界を知りたい ・海外出張できる	【人】 ・感謝してもらいたい	【好き】 ・車が好き ・生き物が好き ・歌うのが好き ・動物が好き	【好き】 ・音楽が好き ・子供が好き ・自転車が好き ・スポーツが好き ・絵を描くのが好き ・何かをいじるのが好き
【趣味】 ・道を覚えたい ・科学が好き ・自分で料理が作れたらいい ・実験が好き	【変身】 ・自分自身が強くなれる	【自分のため】 ・外国へ行っても言語の不自由が無くなるから ・自分の記事が新聞に載るから	【好き】 ・好きだから	【得意】 ・機械 ・ゲーム	【親】 ・親がこの仕事をしている ・家の後を継ぎたい
【親】 ・親も教師 ・親もやっている	【興味】 ・プロサッカー選手を教えてみたい	【お金】 ・収入もまあまあ			
【その他…お金】 ・収入が決まっている	【その他…やりがい】 ・責任のある仕事	【その他】	【その他】	【その他】 ・生き物を救える ・クビにならなそう ・経路がわかっている	【その他】 ・仕事の安定しているから

本時の授業について、ワークシートなどで読み取れる生徒の変容から、次の6つの視点で分析した。

視点1 生計を維持するという側面

収入を得るという側面については、C班のみ項目として「お金」を挙げ、A・F班が「その他」の項目でふれるに留まるなど、全体としてはあまり重視していない様子が見られた。また、ワークシートNo.3の感想では、大切な価値観として認識し直した生徒の様子も表れていた。

— ワークシートNo.3より —

「私は好きなことだけでやってみたい職業を決めていました。でも、まずはある程度お金が必要だということがわかりました。」

【ワークシートNo.3】

***働くことの目的や意義を考えよう！**

Q1 人はなぜ働くのだろう？働く意義って何だろう。

Q2 今日の授業、みんなの意見を通して、学んだこと、感想を書きましょう。

年 組氏名

視点2 自己を生かす勤労観・職業観…社会参加・自己実現について

各班とも「興味」「趣味」「好き」などの項目で自己の個性を職種に生かそうとする傾向が強く現れている。

一方で、A・B・D・F班の「人のため」「役に立つ」「人」「助ける」といった項目、また、C班では「気持ち」という項目で「やりがい」や「大変そうだけど…」という言葉などが見られ、さらにE班では項目「その他」に「生き物を救える」という「理由」があり、すべての班で勤労・職業を通じて社会に役立とうとする側面が現れている。

ワークシートNo.3では、各班で「理由」を分類する作業・討議を通じて、自分の力を社会に役立てる、という側面にふれ、自らの勤労観・職業観を見直している様子がよく現れていた。

— ワークシートNo.3より —

「みんないろいろなことを考えて職業を考えているのだな…」

「人の役に立ちたいという考えは、自分も見習おうと思いました。」

「私は好きなことをしたり、自分を変えることができればよいと思ったけど、みんな人を助けることを職業にしたいと意見しててスゴイよいことだなあと思った。」

「僕はお金をもらうことより、誰かのために仕事をして、『ありがとう』と言ってもらう方がいいなと思いました。…将来、人のために何かをするような仕事をやりたいです。」

視点3 すべての職業がもつ、「社会を支える」という側面について

「～がしたい」という自己目的的な側面と、「収入を得て生活を支える」という経済的な側面を中心にイメージしていた生徒は、「人の役にたつ」という社会的な側面にふれ、新たな価値に気付いた。同時に、自分のこれまでの考えを修正する過程で、例えば、芸術・スポーツなどの職種をイメージしていた生徒が、別の職種を考えなければならないというような思考に至っている傾向も見られた。

— ワークシートNo.3より —

「将来就きたい職業などを聞かれてみると、ひとつしか思い浮かばなかったので、もっと将来について考えてみたいと思いました。自分のため、人のため、生活のため、の3つそろった仕事が一番よいと思ったけど、そんな職業はあまりないと思ったので、時間があったら調べてみたいです。」

人に感動や夢を与える職業など、すべての職業には社会的な価値があり、「人のためになっている」という認識を養いたい。

視点4 職業への親近感が希望理由

特徴的なのは、E班「その他」の「経路がわかっている」。この生徒は、以前、職業調べでその職種に就くまでの道筋を調べたので、その過程が分かっている安心感が、その職種への興味・関心を高めたと発言していた。A・F班に「親」という項目があるのも、その職種に関する理解

に加え、身近な人からのアドバイスなど、将来への不安解消が結果的に興味・関心に結びついている現状が見て取れる。職業や職種に関する学習、職場体験学習の有用性を物語っている。

視点5 「変身願望」・「キャリアアップ」が希望理由

B班の「変身」という項目、またC班の「自分のため」という項目も興味深い。できそうなことを探すのではなく、キャリアアップしていく自分を夢見ていることが表れている。

視点6 個の活動と班討議について

展開①において生徒が個人で落ち着いてワークシートに記入した内容をカードに転記し、展開②で5～6人の班討議で考えを交換、共有できたことは、あらたな価値観にふれ、消化していく上でとても有効であった。

— ワークシートNo.3より —

「みんな、なりたいものは違うのに、理由が似ていておもしろいと思った」
「同じ職業でも考える理由がそれぞれ一人一人にあるのだな、と感じました。またこういう授業があったらいいなと思いました。」

④ 「ねらい」に基づく考察

生徒たちは職種へのあこがれだけではなく、自分なりに働くことの目的や意義をイメージしていた。自分のイメージとは異なる、他の生徒の職業観や勤労観にふれた生徒たちは、勤労のもつ多様な意義や目的を自然に学ぶことができた。班で討議しながら働くことの目的や意義を分類したことは、生徒の勤労観・職業観を広げ、深める上で大変有効であったと言える。進路指導は生徒の興味・関心に基づき、個々の生徒の学習活動として取り組まれる内容も多い。一方で、生徒同士の様々な価値観を共有することをねらいとし、集団活動を通じて学ぶことは、生徒の職業観・勤労観を深める上で、高い効果が期待できると考察する。

今回の研究では、職業を通じて社会の一員として役割を果たすという側面を理解させることをねらいのひとつとして重視した。このことは、「将来設計能力」を高める上で、社会性が芽生えつつも興味・関心が未分化であり、職種の知識があまり十分でない中学生にとって、将来の職業をイメージする道しるべのひとつとして大きな意味をもつ。生徒は、社会に自分の力を役立てようとする価値観にふれ、将来、職業を通じて社会を支えることへの責任を感じ、社会の一員としての存在感を高めるとともに、職業のもつ社会性をも認識することができた。

本研究で提案したこれらの事前事後の学習を経て職場体験学習に臨むことで、その職業が社会に果たす役割や意義について考えると同時に、自分がどのような職業を通して社会に参加することを望むのかを考えることができる。また、役に立つ喜びを働くことの意義のひとつとして捉えさせ、期待に応えようとする気持ち、自ら理想を追求する気持ちを引き出し、職業人として身に付けていかなければならない力を考えさせることに発展させていきたい。

V 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究では「働くことに興味をもち、その意義を理解し、自己の生き方を考えることができる生徒」の育成を目指し、「自他の理解を深める」ことと「将来設計能力を高める」ことに着目して研究を進め、授業実践を通して、その有効性を確かめた。(P.8～P.23)

また、本研究の成果として、次の4つの指導計画等を作成することができた。

1. 「自他の理解を深める活動」「将来設計能力を高める活動」を視点とした特別活動の年間指導計画(P.6,7)
2. 職業的側面から自己理解を促し、自分の能力を学校生活に生かすための学級活動の学習指導案及びワークシート
3. 職業レディネス・テストを取り入れ、自己の適性を把握することを通して「将来設計能力」を高める職場体験学習の事前事後の活動計画
4. 働くことの目的や意義を考え、個々の生徒の勤労観・職業観を深め、将来を展望する能力を高める学習指導案とワークシート。

分科会1では、多面的に自分自身を見つめ、生徒が互いに見つめ合う学級活動の工夫を通じて、自他の理解を高める学習を行った。学習後のアンケートの結果により、自分のこと、友人のことがより理解できるようになり、また、自分のもつ能力を学校生活の中で生かし、学校生活をより充実させたいとする意欲が高まった。

分科会2では、働くことの目的や意義を考え、レディネス・テストを導入するなど、自己の資質を踏まえた将来設計能力を高める学級活動の工夫に取り組んだ。学習の前後を比較すると、社会の現実を踏まえながら、より具体的に将来設計ができるようになった。

本研究の結果から、キャリア教育の視点に立って、「自他の理解能力」を深め「将来設計能力」を高める学級活動の工夫を行うことは、望ましい勤労観・職業観を育成し、自己を生かす能力を高めることに有効であったと考察する。

2 今後の課題

フリーター・ニートの増加、若者の勤労意欲の低下などへの対応で、学校教育に期待されていることは多い。本研究では、キャリア教育における4つの能力の内「人間関係形成能力」である自他の理解能力、「将来設計能力」について研究を重ねたが、さらに、「情報活用能力」「意思決定能力」との関連を図り、特別活動を充実させ有効に機能させることは、これらの課題解決につながると考える。今後全ての学校で、学校全体の取り組みとしてキャリア教育の視点に立った特別活動を計画的・体系的に取り組んでいくことが求められる。

参考文献

- 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」平成16年1月文部科学省
「望ましい勤労観・職業観の育成Ⅱ」平成16年3月東京都教育庁指導部
「図解 はじめる小学校キャリア教育」三村隆男 実業之日本社
「職業レディネス・テスト手引き」日本労働研究機構 社団法人雇用問題研究会

平成17年度 教育研究員名簿(特別活動)

	区市町村名	学 校 名	氏 名
第 1 分 科 会	江 東 区	深 川 第 五 中 学 校	○脇 本 勝 通
	葛 飾 区	上 平 井 中 学 校	川 上 大 介
	練 馬 区	光 が 丘 第 三 中 学 校	鈴 木 雅 博
	練 馬 区	大 泉 中 学 校	森 山 賀 奈 子
第 2 分 科 会	大 田 区	蒲 田 中 学 校	○佐 藤 圭 一
	八 王 子 市	七 国 中 学 校	◎小 林 伸 一
	国 分 寺 市	第 二 中 学 校	関 山 一 樹
	東 大 和 市	第 四 中 学 校	谷 口 学 史

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 青木 由美子

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号
電話番号 03-5434-1974

印 刷 株式会社 今 関 印 刷